

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370126

研究課題名(和文)大正・昭和戦前期の中等学校図画教員と出身美術学校の総覧的研究

研究課題名(英文)a research on drawing teachers and their graduate art schools at the secondary schools in the taisho and the showa era pre-world war-2

研究代表者

金子 一夫 (KANEKO, Kazuo)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：70114014

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：植民地を含めて戦前の全国すべての中等学校図画教員の氏名と勤務期間を明らかにして一覧表を作成し、その全体像を報告書3冊(約1000頁)にまとめた。従来の個別の対象をつなげる線的方法ではなく面的方法を取った。戦前の中等美術学校の膨大な図画教員数とその教育総量が認識できた。図画教員の出身美術学校も調査して、美術学校毎の出身図画教員数の割合とその推移も可視化し、特に東京美術学校や女子美術学校が図画教員養成に果たした役割も示した。

研究成果の概要(英文)：In the report three books (almost 1000 pages) the author made a list to reveal the name and years of service of all secondary school drawing teacher in the pre-war across this country including the colony. It took the planar method rather than the linear method, a conventional one. Vast number of drawing teachers of pre-war secondary art school and its education total amount can be recognized. And research art schools which drawing teachers have born, the proportion and the transition of the number of born drawing teachers of every art school also visualized, also showed in particular the role that Tokyo Bijutsu Gakko(Tokyo national art school) and the Joshi Bijutsy Gakko(the Girls art school) has played in drawing teacher training.

研究分野：近代日本美術教育史

キーワード：美術教育史 美術教育 図画教員 教員養成 近代日本美術

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 日本全体を面的に把握する必要

近年の美術教育史や地方美術史研究は、傑出した図画教員や作家だけではなく、美術教育や美術発生基盤を形成した多数の実践者を対象とする方向への展開が見られる。しかし、幾つかの県立美術館で当該県の図画教員調査はされているものの、全国約 5000 の中等学校を異動した龐大な人数の図画教員の修業歴や勤務期間等の調査は、それなりの専門的方法論が必要であり簡単ではない。従来の研究的方法論は対象が点、あるいは線的なものであるのに対して、今回研究代表者が取ろうとしたのは、日本全体を面的に捉える方法論と言える。

既に応募者は、明治期の全国中等学校図画教員勤務と出身学校に関しては「明治期中等学校図画教員総覧」として発表した(『近代日本美術教育史の研究 明治時代』中央公論美術出版、1992 年)。図画教員勤務の全体像や多数の初期洋画家の存在を明らかにして、多くの美術教育史・地方美術史研究者に参照された。それに続く大正・昭和戦前期の図画教員勤務の全体像が要望されていた。

### (2) 旧植民地の図画教員勤務の解明

近代日本の旧植民地美術史研究も盛んになりつつある。旧植民地では内地以上に美術活動には図画教員の影響力が大きかったので、まず同地での図画教員勤務の全体像を把握する必要がある。しかし、その解明は現在非常に困難であり、特定の図画教員の活動に関する研究になりがちである。本研究のような図画教員勤務全体を明らかにする専門的調査の成果が待たれていた。

### (3) 図画教員養成機関の歴史的意義

近年発行された『東京芸術大学百年史』『女子美術大学百年史』等の美術大学史は、本格的な学術研究である。ただ、図画教員養成は美術専門学校の主要目的と意識されないために、それらが図画教員養成に寄与した側面

はあまり実証されていない。美術専門課程であっても図画教員養成、ひいては全国的な美術基盤形成に果たした役割は大きい。その実証は、出身美術学校データを附した全国図画教員勤務表によって可能となるはずである。

## 2. 研究の目的

### (1) 日本全体の図画教員の面的把握

美術発生基盤を形成した戦前図画教員の全国的な先行研究は、先述の応募者の「明治期中等学校図画教員総覧」しかなく、本研究はその継続として進行中の大正・昭和戦前期の全国(旧植民地を含む)中等学校図画教員勤務表を加速的に完成し、図画教員勤務を地図的全体像として可視化する。調査困難で図画教員勤務に関しての不明部分が多い地域・時期を各県立図書館等の調査で解明する。

### (2) 個別的特質の解明

全国・庁府県・校種等別に図画教員の出身美術学校の違い、時期・地域別の図画教員勤務の特質、及び全国の美術発生基盤の形成に対する美術学校の役割を実証する。

### (3) 地方美術史・美術教育史の基礎研究

作成した図画教員勤務の地図的全体像は、地域・時代別図画教員勤務の実態と特質、そして図画教員養成に果たした美術専門学校の役割等を明らかにし、地方美術史・美術教育史研究者に参照必須の基礎研究となる。

## 3. 研究の方法

### (1) 概要

戦前の全国道府県中等学校約 5000 校の図画教員を以下のような方法で調査した。各種教員名簿、学校史、学校同窓会名簿等を入手すると同時に県立図書館等でそれら関係資料を調査し、直轄学校と道府県別に勤務表を完成する。同時に図画教員データベースを作成し、入力を継続して充実した。

### (2) 『中等教育諸学校職員録』の調査

各年度の教員名・担当教科等を網羅した中等教科書協会編『中等教育諸学校職員録』(昭

和 13 年から校種別 3 分冊) は稀覯本であった。しかし、平成 23 年度から国会図書館が戦前発行図書の本公開を始めたので、同書の参照可能な巻は既に調査を完了し、それを踏まえた全国の図画教員勤務表も作成した。ただ、教員の就退任年月は記されていないので、後述の諸資料で確定する調査を行った。また、国会図書館に大正期 8 冊( 8 年度分)、昭和期で 15 冊( 5 年度分) が収蔵されていないため、図画教員勤務が一部空白になっている学校も多い。この空白部の図画教員名と就退任年月を下記作業で可能な限り確定した。

### ( 3 ) 各種関係資料の調査

各県学事関係職員録、学校史、同窓会名簿、図画教育雑誌記事等で図画教員の氏名・勤務校・勤務期間等を調査した。これら資料古書を手に入れ、あるいは全国の図画教員を県立図書館等で学事関係職員録、学校史、同窓会名簿等を調査した。それでも不明な学校は、後身高等学校を調査した。

担当教科が記されていない教員資料しかなかった場合は、後述の出身美術学校別図画教員データベースを検索して図画教員を特定した。

### ( 4 ) 国立公文書館での調査

上記作業とは別に中途から国立公文書館の文部省関係文書を調査した。各府県及び直轄学校の認可申請書に図画教員関係記述が含まれている。特に昭和 18 年から官立になった各県師範学校の図画教員特定には有効であった。しかし、収蔵関係文書は膨大であってもすべて収蔵されているわけではなく、検索用データベースに入力されていない文書もあって、公文書館の調査は未だ継続中である。

### ( 5 ) データベースの作成と利用

出身美術学校別の絵画・図案関係卒業生、出身美術学校別の絵画・図案関係卒業生、文部省図画教員検定試験合格者等のデータベースを作成する。使用ソフトウェアは種々試みた結果、作成とデータ検索の簡便さ

からマイクロソフトのエクセルを採用した。まず約 15,000 件の基本的な人名を美術学校別のシートに入力した。

入力した主な美術学校別卒業生業生の概数は以下の通りである。天絵社門人約 170 名、彰技堂門人約 300 名、工部美術学校卒業生約 70 名、不同舎門人約 300 名。東京美術学校図画師範科、日本画科、西洋画科、図案科卒業生約 4,000 名。東京高等師範学校図画手工専修科卒業生約 300 名。東京女子高等師範学校技芸専修科、図画専修科卒業生約 400 名。広島高等師範学校附設第二臨時教員養成所( 図画専修) 卒業生 23 名。奈良女子高等師範図画教員免許取得者約 50 名。東京高等工業学校工芸図案科卒業生約 250 名。東京高等工芸学校図案科卒業生、約 500 名。京都市立美術工芸学校・絵画専門学校絵画科、図案科卒業生約 2,500 名。京都高等工芸学校図案科卒業生約 1,000 名。女子美術学校日本画科、西洋画科卒業生約 1,700 名。帝国美術学校卒業生約 500 名。多摩美術学校卒業生 200 名。日本美術学校卒業生約 500 名。文部省図画教員検定試験合格者延べ約 3,000 名。また、出身学校不明であるが、図画教員であることに間違いのない教員も多数発見した。それら約 2700 名も別シートに入力した。そうすると総計約 18,400 名のデータベースとなった。

新たに判明した図画教員、入力済み図画教員についても新判明事項等を入力してデータベースの充実化を図った。

このデータベース内の検索で、先述の担当教科不明の教員一覧表から図画教員を特定する作業もかなりできた。

## 4 . 研究成果

### ( 1 ) 概要

旧植民地を含めて戦前の全国すべての中等学校図画教員の氏名と勤務期間を明らかにして一覧表を作成し、その全体像を報告書 3 冊( 約 1000 頁) にまとめた。従来の個別的

対象をつなげる線的方法ではなく面的方法を取った。戦前の中等美術学校の膨大な図画教員数とその教育総量が認識できた。図画教員の出身美術学校も調査して、美術学校毎の出身図画教員数の割合とその推移も可視化し、特に東京美術学校や女子美術学校が図画教員養成に果たした役割も示した。

#### (2) 日本全体の図画教員勤務の面的把握

一部空白部はあるもののほぼ戦前の全国中等学校すべての図画教員勤務一覧表を作成できた。これによって日本全体の図画教員勤務が可視化されたと言ってよい。また、庁府県別の図画教員の特徴、あるいは図画教員勤務の推移の特徴も可視的に捉えられようになった。何よりも近代日本の図画教育量の膨大さが感得できる。

#### (3) 旧植民地の図画教員勤務の実態

旧朝鮮及び旧台湾での図画教員勤務は点的にしか解明されてこなかった。今回、一部空白はあるものの旧植民地の中等学校図画教員勤務を面的に明らかにした。これによって、今後の旧植民地の美術史及び美術教育史は、まず図画教員勤務の全体的像を出発点にすることになり、全くちがった様相になっていくと予測される。

#### (4) 図画教員養成機関の役割

戦前に東京美術学校図画師範科、東京高等師範図画手工専修科、東京女子高等師範図画専修科等の図画教員養成機関はあったが、全国5000もの中等学校の図画教員需要には応じきれなかった。東京美術学校日本画科・西洋画科、さらには美術専門学校や画塾も図画教員養成的役割を担ったことを実証できた。

東京美術学校日本画科・西洋画科の卒業生のほとんどが、勤務期間の長短はあれ図画教員となったことが判明した。また、京都市立絵画専門学校、京都高等工芸学校図案科も卒業生の多くが図画教員をし、高等女学校や女学校に多くの女子美術学校卒業の図画教員がいたことを実証できた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

金子一夫、戦前期検定図画教科書一覧(1) 明治期図画教科書、茨城大学教育学部紀要(教育科学)、査読無、No.65, 2016, pp.15-34.

金子一夫、戦前期検定図画教科書一覧(2) 明治期図画教科書、茨城大学教育学部紀要(教育科学)、査読無、No.65, 2016, pp.35-46.

金子一夫、秋尾園と工部美術学校、近代画説、査読有、No.24, 2015, pp.4-33.

金子一夫、大正・昭和戦前期全国中等学校図画教員の総覧的研究(5) 東京府立高等女学校・私立高等女学校・女学校、茨城大学教育学部紀要(教育科学)、査読無、No.64, 2015, pp.43-62. <http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/handle/10109/12612>

金子一夫、大正・昭和戦前期全国中等学校図画教員の総覧的研究(4) 茨城県、茨城大学教育学部紀要(教育科学)、査読無、No.63, 2014, pp.23-42. <http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/handle/10109/8827>

〔学会発表〕(計 1 件)

金子一夫、近代日本の美術教育、佐賀大学美術館「佐賀の美術教師たち」展、2016.6.4、佐賀大学美術館。

〔図書〕(計 2 件)

(共)金子一夫・野中耕介・佐々木奈美子、佐賀の美術教師たち 地方画壇の成立と美術教育者、佐賀大学美術館、2016, pp.4-15.

(共)金子一夫・吉田衣里子、ようこそ白牙会展へ、茨城県つくば美術館、2013, pp.6-11.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 未定

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

金子 一夫 (KANEKO Kazuo)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：70114014